

# 県外派遣審判員報告書

作成日 H30年 3月19日

大会名	全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会	会場	奥武山武道館アリーナ
期間	H30. 3. 16(金)~18(日)	報告者	隈元 ゆみこ
スケジュール			
期日	内容		場所
3月17日(土)	8:30~	各会場にて審判会議	奥武山武道館アリーナ
	9:00~	女子1回戦 東海大福岡 対 糸満	
	16:30	女子2回戦 精華女子 対 長崎女子	
3月18日(日)	13:30	女子 シード決定戦 長崎西 対 日章学園	
レクチャー・審判会議の内容			
<p>&lt;審判会議内容&gt; 窪田氏より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全試合3POで実施できるのは、沖縄県のご厚意あってこそ。感謝の気持ちをもってコートに立ちましょう。</li> <li>・けが人を出さないためにコート上の管理をしっかりすること。</li> <li>・PGCにしっかり時間をかけること。参考資料が福岡氏より提供されているので、活用してください。</li> </ul> <p>沖縄県より諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送、洗濯、試合後のサイン、懇親会、更衣室について</li> </ul>			
実技	割り当て	女子1回戦 東海大福岡 対 糸満	CC 相手 U1:松永(長崎) U2:徳丸(熊本)

## ○ゲーム前(プレカンファレンス)

第一試合ということであまりじっくりと時間をかけてのPGCとはならず、基本的な3POのメカニクスについて、パワーポイントを活用して簡単に確認していく形となった。内容については、プライマリエリアとプライミアングルについて、Cの積極性(ハイポストプレイに関する事、インサイドプレイヤーのターンに関する事、オフボールなど)、コーナーでのプレイの見方、Lのアシスト、ドライブに対してのTとCの役割、できるだけ多くの時間ストロングサイドを作るためにLが積極的にローテーションを行うこと、EOPやEOGでのクロック等の管理、OOBの訂正について、2vs3、スイッチミスやメカが崩れてしまった際の対応、コミュニケーションの取り方など、お互いに今もっている情報を出し合いながら、個人として、クルーとしての役割を一つ一つ簡単に確認していった。また、映像を活用し、ローテーションやプライマリエリア、アングル、悪い手の使い方、ベンチへの対応等について確認をした。PGCが簡単な確認にとどまったため、あとはゲーム中にいろいろな情報をお互いに出し合い、それらを共有しながら進めていこうという話をしてゲームに臨んだ。

## ○ゲームの実際

ゲームは、最後まで糸満が頑張りを見せ、3P途中も連続シュートで追い上げるなど、見ている側には面白いゲーム展開であった。ゲームの入りはそれぞれのプライマリで起こったヴァイオレーションやファウルについてしっかり判定をすることができていた。TOやベンチともほどよいコミュニケーションがとれていたように思う。(ベンチアピールがあった際にも、近くのRefがしっかりコミュニケーションを図っていた。)メカニクスについては、いくつかローテーションがうまくいかなかった場面もあったが、比較的スムーズにいった。ただ、誰が判定すべきだったのかということに関しては、もう少しそれぞれが自分のプライマリの理解をしていかなければならないと感じた。1P途中で電光掲示が動かなくなるトラブルがあったが、TO席にデジタイマーを設置することで対応していただいた。その際のプレーの再開やタイムアウト明け、各ピリオドの始めかたについては、スムーズな運営にするために3人で分担していかなければならなかったと感じた。また、タイマーの位置が通常ではなかったということで、EOP、EOGの際のプライマリは誰かということコミュニケーションを図りながら実施することができた。CCとしてクルー全体をどういう風にリードしていくかということについては、まだまだ課題が残るゲームであった。

## ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 岩尾氏(熊本県 A級)

ゲームの入りが良く、それぞれがプライマリで起こることにしっかり判定をしてとてもスムーズな入りであった。ローテーションも積極的に行っていて見ていると違和感を感じることはなかった。いくつかのケースで、誰のプライマリであったのか、判定したけれども、本当にアングルがしっかりととれていたのかどうかということがあった。笛を入れるタイミングが早いので、もう少しじっくりとらえてからが良い。確認が薄い部分もあったので、しっかり確認をして判定をすること。後半になるにつれ、プライマリが広がってきてしまったように感じた。CCとして、どういったところで笛をいれるのか、クルーをどのようにリードしていくのか、決断が必要な場面があったように思う。

実技	割り当て	女子2回戦 精華女子 対 長崎女子	U1	相手	CC:窪田(佐賀) U2:角田(鹿児島)
----	------	-------------------	----	----	----------------------

## ○ゲーム前(プレカンファレンス)

U2角田氏が3PO経験が浅いということもあり、CC窪田さんより、3POメカニクスについて、基本的なところからわかりやすく丁寧に確認をしていただいた。エリア(平面的なもの)、アングル(立体的なもの)について、CtoC、OOBの協力、Cサイドにボールがいった際の対応、ローテーションについては、ストロングサイドを作るために積極的に行おうということ(24secの中で2~3回はあっていい)、ファウルの数や2スローなのか1スローなのかの確認、TOとのコミュニケーションなどについて話をした。また、担当するチームは、本日2試合目ということで、体力的にも疲労がみられるだろうということ、各チームの戦術的特徴、試合進行自体が遅れてはいるが、選手を守るためにコート上の安全に気を付けようということや、選手がケガした際には、選手を守ることを優先するという点などについても話をした。

## ○ゲームの実際

1ゲーム通してCCが常にクルーをリードしてくださり、大きなトラブルもなくゲームを終えることができた。ゲーム自体もさほど難しい現象はなく、やはりプライマリがどこにあるのか、アングルをとれているのは誰なのかということ3人が理解していなければならなかったと感じた。OOBの協力の仕方について、EOP・EOGのクロックのプライマリの確認など、私自身からのコミュニケーションももっと必要だったように思う。力の差のあるゲームだったということもあり、ゲームがある程度決まったあとは、自分自身の課題としていることを思い切ってチャレンジすることができた。ただし、そのチャレンジの中で、セカンダリーとして笛をいれるべき場面での決断ができていなかったケースがあった。どのタイミングでセカンダリーとしてでいくべきなのか、どこまでをプライマリに任せるのかという決断の仕方については今後の課題であると感じた。CCとしてのクルーやTOとのコミュニケーションのとりにかた、テンポセッティングやベンチコントロールについて、実際に一緒にコートに立つ中でとても勉強になるゲームであった。

## ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 なし

セカンダリーとしてコールすべきだったケースについて、CC窪田さんよりアドバイスいただいた。プライマリはLであったが、その前からのOFFとDEFのやり合いからすると、セカンダリーとしてアングルがとれていたのは、Cサイドにいる私で、Tはブラインドでの判定となってしまふ。あの場面で吹くべきは、①L②Cであったということをご指摘いただいた。

実技	割り当て	女子シード決定戦 長崎西 対 日章学園	CC	相手	U1:秀島(佐賀) U2:井上(福岡)
----	------	---------------------	----	----	---------------------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

チームは、4ゲーム目であることもあり、相当疲労も蓄積されているだろうということ。とにかくケガ無くゲームが終わるように、ガイドラインにそった判定をしていくことや、選手保護のために、コートにも気を配ること。そして、チームのキープレイヤーや特徴についてお互いが持っている情報を出し合い、それらを共有した。また、3PO経験も浅いというクルーであったため、昨日の2ゲーム目でのPGCを活かし、できるだけ丁寧に確認をするよう心がけた。また、昨日のゲームでのクルーメンバーの反省点もお互いに出しながら、その反省点克服のために、どういったことを次のゲームで意識してのぞむかということについて話をした。メカニクスについての確認事項は、パワーポイントを活用して、初日同様に映像を取り入れながら確認をしていった。

○ゲームの実際

CCとして、自分のエリア・アングルでおこなうことに対しての判定を積み重ねることで、クルーをリードしていくこと、昨日のチャレンジで得られた「気持ちの部分での感覚」を持ち続けてコートに立つということを意識してゲームにのぞみ、自己評価としてはそれが1ゲーム通してやりきれたことはよかった点であった。負けている白に対する判定が多くなってしまった点について、CCとしてどうコミュニケーションを図るかということについては、まだまだ課題である。日章ベンチの3秒アピールや長崎西の選手のアピールに対して、もう少し早い段階でベンチとコミュニケーションが図れればよかったと思う。また、ワーニングについて、もっとはっきり大きく示すべきであった。そこが曖昧だったために、クルーに伝わっておらず、コーチへの警告がだいぶ遅れてしまう原因となった。ルーズボールでボールコントロールは変わらなかったが、インパクトの大きかったケースについて、しっかりと判定を下すべきであった。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 和田氏(福岡県 A級)

日章の守り方について、もう少し整理すべき点があったということ、ビッグインパクトに対する判定についてボールコントロールは変わらなかったが、大きく倒れてしまうケースであったので、やはりコールをすべきであった。ワーニングについても、プレゼンがはっきりしていなかったのもっとしっかりと示すということ、ベンチへは別なRefが協力して伝えにいくことなどご指摘いただいた。コール後、もう少しステイして、選手にわからせてからレポートにいくと良い。

全体を通しての感想

今回、3ゲーム中2ゲームCCを担当させてもらい、まだまだCCとしてクルーをどうリードしていくか、どういったコミュニケーションをはかってクルーメンバーをのせていくかということについては課題が残りました。ただ、チャレンジできたことで「気持ちの部分」というところで得られたものは大きかったです。3POメカについても、Lのローテーションや位置に応じて、そのときそのときの自分のエリアやアングルの理解が重要であること、セカンダリーとしてどのタイミング、どの場面で決断を下すかということについて考えさせられた2日間でした。

また、今回、佐賀県窪田さんのS級として最後のブロック大会と一緒にゲームを担当させてもらえたこと、ゲームの中で教えられたもの感じたものというのは、今後の私にとって大きな財産です。そして、これらをどう活かしていくかとうことが求められているのだと痛感しました。窪田さんの最後ということで、九州女性レフリーを中心に、沖縄県審判委員会をはじめ、各県審判長の皆さま、九州男性レフリーの皆さまのご理解とご協力があった、決勝後に窪田さんをねぎらう会ができたこと、その場にいられたこと、そのような機会を本当にありがとうございました。今回得たことを県内にも還元できるよう、努力していきます。

最後に大変お世話になった沖縄県審判委員会の皆様、大会運営でご協力いただいた沖縄県バスケットボール協会の皆様、そして、今回の派遣に御配慮いただきました原田審判長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。